

# ゆめ かたち づくり～ 理想を現実に！

## 2018年

## 新春市長インタビュー



茅野市長 柳平千代一

### 今年の一文字「実」

いろいろな取り組みを形にする、実現する年、第5次総合計画を実践、実行する年にします。

——昨年1年間を振り返り、どんな年でしたか。また、特徴的な出来事はどんなことですか。

新しい仕組みや取り組みを作り上げる、また準備をしていく年であったと思います。具体的には諏訪東京理科大学の公立化、茅野版DMO、コワーキングスペースの準備を進めてきました。また、第5次総合計画の策定には多くの市民の皆さんに関わっていただきました。

イベントとしては、第0回ハケ岳JOMONライフフェスティバルを開催しました。3年後の第1回開催に向けて試行ができたと思います。しっかり検証して準備に取り掛かってまいります。

——公立諏訪東京理科大学について、どんな大学にしていきたいですか。

ものづくりの集積地、諏訪地域にある工学系大学の特色を、いかに発揮していくことができるか、それが諏訪東京理科大学の存続する意味になると思います。地元にある企業との連携がしっかりとできていく大学という特色を出していくことができれば、学生にとっても分かりやすい選択肢になると思います。その中で魅力ある研究ができたもの、ものづくりの実践ができる環境を作っていきたいと思っています。ハード面においては、平成30年度に新棟の設計を進めていき

### 諏訪広域公立大学事務組合が設立



——茅野版DMOの設立に向けての取り組みについて聞かせてください。

平成30年4月1日に設立する予定の茅野版DMOは、現在、それぞれの分科会において、組織経営企画、ブランディングの検討を進めています。同時に理事

ます。公立諏訪東京理科大学は工学部になりますので、実験室が必要になりますし、大学院のための研究設備も必要です。そのため整備をしなければなりません。平成31年度頃から工事に入っていく予定です。資金は構成市町村が負担するという点ではなく、交付金等の収入を充て、施設整備を進めていきます。

等の人選も検討を始めています。茅野市ではこれまで、観光協会という形で長い歴史を重ねてきました。これからは自らが稼いでいくような団体に移行していかねければならないと考えています。観光協会の法人化も検討したことがありましたが思うようには進みませんでした。DMOという形態をとることで今まででできなかったことができるようになると思います。観光事業者の皆さんにはまだ戸惑いがあるかと思いますが、しっかりご理解をいただき、DMOに参加して、DMOを活用して利益につなげてもらいたいと思います。

——コワーキングスペースについて、どのように利用してほしいですか。

昨年12月に行ったコワーキングスペースのプレイベントで、どんな使い方ができるか提言していただきました。「ワークラボハケ岳」のコンセプトである「働く実験室」がまさに使い方を表わしています。オフィスエリア、ワークスペース、会議室、フリースペースという4つの機能、それぞれに合った働き方を実験試してもらいたいと思います。

# 「実」～やさしさと活力あるまち

このコワーキングスペースは一般の企業の方だけでなく、幅広い方に使ってほしいと思います。例えば学生が先進的な取り組みをしている経営者と接することでいろいろな刺激を持ってもらう機会になればいいなと思います。

また働く女性への支援も行っていききたいと思います。子育て中でフルタイムは働けないけれども一定の時間は働きたい女性とか、空き店舗を複数の女性で使って仕事場としたい方とか、「私はこんなスキルを持っている」という人のスキルが活かせる仕事の情報が提供できる場にしていきたいと思います。

「ワークラボハケ岳」が直接支援をしたり、さまざまな情報を提供することで多くの人に「働き方」を提供できる場所になればと思います。

どのような支援ができるかはこれから決まる指定管理者と協議しながら検討していきます。

## ワークラボハケ岳



—平成30年から第5次茅野市総合計画が始まります。どのような計画にいきますか。

「第4次茅野市総合計画」は基本構想、基本計画がありました。茅野市には「ビーナスポラン」や「どんぐりプラン」等の素晴らしい個別計画がありますので、どうしても二重構造のようになっています。第5次茅野市総合計画」では、基本計画に分野別計画をはめ込んでいくことでよりすっきりとさせ、それぞれの計画を日々検証することで、個別の計画を進化させていく組立にしております。計画を進める中で修正も必要になるのかと思いますが、市民の皆さんには策定までの最後の詰めを頑張っていたいております。ことに感謝申し上げます。

「第5次茅野市総合計画」では五つの基本的な考え方を示させていただきます。

- 一つは人口減少、少子高齢化の中であらゆる地域・世代が支え合う仕組みを作っていくこと。
- 二つとして諏訪東京理科大学や茅野版DMOの取り組みも含め、まちの活力を向上させる仕組みの必要性。
- 三つとしてグローバル化が進

み、IT化が進み、教育環境が目まぐるしく変化していく中でそれに立ち向かっていく。「たくましく・やさしい・夢のある子ども」を育てる環境づくりを進めること。

四つとして、昨年は台風21号で浸水被害が出てしまいました。そうした対策も含めて、災害に強い支え合いのまちを形成していくこと。社会基盤の充実を図ること。

五つとしてあらゆる主体による協働のまちづくり、「みんなで作る、みんなの茅野市」を完成させていくこと。

この五つの視点でそれぞれの施策にあたっていくことがポイントになると思います。人口減少が進んできますが、小さくならず、活力のある茅野市を維持していきたいと思っています。

—平成30年8月1日に市制施行60周年を迎えますが、どのような事業を考えていますか。

市制60周年の記念式典を行いたいと思います。また記念の講演会や演奏会など、市民の皆さんと一緒に楽しくやることを考えたいと思います。併せて市を紹介する映像作成も行っていきます。また普段の事業に

「60周年」という冠をつけて、市民の皆さんに茅野市も還暦を迎えたということを伝えて、振り返りの年にしたいと思っています。

—今年1年、どんな年になりそうですか。年頭に当たって市民の皆さんにメッセージをお願いします。

平成30年は新しいものが形になっていきます。諏訪東京理科大学の公立化、茅野版DMO、コワーキングスペース、第5次総合計画。いろんな理想を現実にしていくことを、もう一度皆さんと認識する一年にしたいと思います。新しいものを大いに活用していただき、やさしさと活力あるまちにしていきたいですよ。

## 諏訪東京理科大学キャンパス

